

中国における「池田思想」研究の動向（9）

高 橋 強

1. 池田思想研究の学術シンポジウム等

（1）第6回「池田大作平和思想研究フォーラム」

2012年3月2日「永遠の生命の新しい価値」のテーマのもと、中国文化大学（台湾）にて上記シンポジウムが開催され、約200名の研究者、教職員、学生らが参加した。提出された論文は計28本であった。

中国文化大学の張鏡湖理事長は「創価学会インターナショナルと池田先生の貢献」と題し基調講演を行った。その中で、マハトマ・ガンジー、キング博士、池田インターナショナル会長に通底する精神性や理念に触れつつ、同会長の“徳”を確立し人々の模範となる「立徳」、功を立て社会に恩恵を及ぼす「立功」の人生に言及した。さらに、50点を超える対談集の出版や創価学会インターナショナルの広がりには象徴される、同会長の“言”を打ち立て思想を後世に残す「立言」を高く評価し、「その言論闘争の広範さ、影響の深遠さは過去に類がない」と結んだ。

その後、全体報告にうつり以下の発表があった。（以下敬称略）

高橋強：「池田大作の『永遠の生命観』序論」（創価大学）

劉焜輝：「池田大作の『創造的生命観』」（中国文化大学）

唐彦博：「池田大作の幸福観から台湾の幸福社会の展望を論ず」（育達商業科技大学）

引き続き以下の3つのセッションに分かれ活発な議論がなされた。

（第1セッション）

王吉林：「忠恕的教育思惟」（中国文化大学）

林彩梅：「池田大作の世界市民教育と幸福人生」（中国文化大学）

劉広英：「嫦娥と仙人の薬」（中国文化大学）

譚延輝：「人権社会と民衆の薬」（薬剤師公会全連合）

（第2セッション）

陳鵬仁：「人権の世紀への提言」（中国文化大学）

黄大璋：「池田大作の人間主義思想から永遠の生命の価値を論ず」（万能科技大学）

張守一：「池田大作の師弟思想から今日の大学教育実践を見る」（中興大学）

白文章：「人類の発展要素は利他に努力する行動の中に」（東呉大学）

（第3セッション）

健雲山：「池田大作の平和思想の実践」（台南科技大学）

周建亨：「『二十一世紀への対話』を読んで」（中国文化大学）

張文龍：「創価教育の実践」（中華民国工業協進会）

吳安妮：「池田大作平和思想の会社経営戦略及びその影響」（政治大学）

劉延揚：「Harmony から Harvest へ——生命の価値 21 の H」（台北海洋技術学院）

李彦良：「製造責任から見る創価の人間的価値」（中国文化大学）

葛瑞森：「The Role of Sound and Music in Religious Ceremonies Around the World」

（2）2012「池田大作思想シンポジウム」

3月24日「二十一世紀と生命の尊厳」のテーマのもと、広東省の韶関学院にて上記シンポジウムが開催され、約100名の研究者、教職員、学生らが参加した。提出された論文は計29本であった。

開幕式において多数の来賓から挨拶があったが、その中に多くの有意義な視点が含まれていた。例えば、「池田思想シンポジウムは、中日文化交流の重要な舞台となっている」、「池田先生の仏法人道主義の“衆生平等”の観点から提起された“生命尊厳”は、系統的で調和的な生態発展理論を有し、中国が生態発展の道を歩むことや調和社会を構築することに対し、現実的な指導的意義を有する」、「池田思想研究を通して、人類は生命の尊厳が有する深遠な意義を理解することができる」等。

午前中、以下の6名による大会発表があった。（以下敬称略）

温憲元：「池田大作の生命尊厳思想の三重の特徴と世界的意義」（広東社会科学院）

高橋強：「池田大作の生命観から見た『生命の尊厳』」（創価大学）

黄順力：「池田大作の『生命宇宙観』」（アモイ大学）

孫立川：「池田大作先生の『生命尊厳』思想」（香港天地図書）

高岳倫：「生命尊厳の世界的啓蒙」（仲愷農業工程学院）

官建平：「『中国式尊厳』への再考」（韶関学院）

午後の発表は以下の通りである。

蔡開賢、王麗榮：「現代の医学道德の危機と再建」（中山大学）

陳曉春、吳曉龍、施卓宏：「人間の本質的屬性に基づいた視点からの生命尊厳研究」（湖南大学）

陳永良：「伝統仏教の生命観を超えた生命の起源への新解釈」（韶関学院）

黄薈、鐘明華、王麗榮：「池田生命倫理」（中山大学）

胡敏：「大学図書館の生命教育の实践と思考」（韶関学院）

紀亜光：「生命尊厳と世々代々にわたる友好」（南開大学）

蔣菊：「教育が生命を発揚する示唆」（肇慶学院）

井賢巖：「池田大作の生命観及びその個人の発展に対する教育的示唆」（韶関学院）

李曙豪：「池田大作が論ずる 21 世紀の生命尊厳及び社会調和」（韶関学院）

林振武、魏宇文：「池田大作の生命尊厳思想の特色」（嘉応学院）

劉建榮：「芸術の精神的価値」（湖南師範大学）

劉卓紅、盧文忠：「生命の尊厳」（華南師範大学）

施保国：「池田大作生命観の道德的価値の基礎」（嘉応学院）

唐彦博：「池田大作の創造的永遠の生命の新たな価値」（育達商業科技大学）

譚海媚：「池田大作の児童教育思想及び我々に対する示唆」（韶関学院）

汪鴻祥：「池田大作の生命尊厳思想と实践」（創価大学）

王夏冰：「女性の生命尊厳擁護と池田大作の妊娠育児観」（安陽工学院）

邢榮發：「池田大作の“人間主義”の实践」（マカオ科技大学）

原青林：「池田大作の生命尊厳思想と授業での生命への関心」（肇慶学院）

曾崢：「池田大作の生命に回帰する教育思想」（韶関学院）

張造群：「以人為本（人を本とする）と生命尊厳」（広東社会科学院）

(3) 日中国交正常化 40 周年記念「池田研究フォーラム」

5 月 23 日、日中国交正常化 40 周年を記念して創価大学にて、中国の気鋭の研究者 7 名を招き上記フォーラムが開催された。

以下 7 名の研究者の報告主旨を紹介する。（以下敬称略）

譚桂林（南京師範大学）：

中国の 3 つの古典作品、即ち「論語」「水滸伝」「三国志」と 3 人の現代作家、即ち魯迅、巴金、金庸と池田氏の思想・文学の比較研究に従事してきた。この研究を通し、池田氏は「詩心」を喚起しているように考える。池田氏は“人間の精神を開く新しい境地の詩”の世界を広げ、詩人の使命として、人々の詩心の覚醒と人間性の開花を呼びかけている。

また大量生産・大量消費時代の影響を強く受ける文化界で、文学は画一性の社会を乗り越える想像力を再建し得るものである。これこそが池田氏が主張する「新文芸復興」の哲学である。そ

これは文学の領域にとどまらず、新たな人類文明を建設する思想である。

韋立新（広東外語外貿大学）：

中国ではかつて“国家や社会集団の繁栄のために、個人における幸福の犠牲はある程度やむを得ない”といった風潮があり、そうした教育が実施された時期もあった。しかし近年は、人権意識が次第に高まっている。教育界でも、“公益を守るとともに、最も重要なのは個人の生命の安全の確保である”という思想が広がりつつあることも事実である。政府においては「以人為本（人をもって本となす）」との“人間の尊重”や、“人間性の重視”を根本とする施政方針が掲げられるようになった。

さらに中国は調和社会の構築を目指している。世界も協調と共存を求めている。その意味からも、池田氏の人間主義の思想を研究する意義は極めて大きい。

高益民（北京師範大学）：

教育学の研究者として、池田思想に対する所感を2点にわたって言及する。

第1点は、池田氏の掲げる仏法哲学は「実践仏法」と命名できるものである。人間社会から離れ祈念するだけの仏教の一般的なイメージとは異なり、池田氏は実際に世界を駆け、社会変革への具体的行動を展開している。

第2点は、池田氏が広げている仏法は「連携仏法」と命名できるものである。人々を連携させ、同じ目的に向かって進もうというものである。そこでは自己反省を伴う他者との関わりを通し、それぞれの人間性が昇華されている。これが池田氏の提唱する「人間革命」ではないかと解釈している。

紀亜光（南開大学）：

池田思想は健全な人格の育成、生命の尊重、生命がもつ価値の開発という根本的な命題に端を発している。こうした基礎の上に人類の共存と調和社会の共同構築が強調されており、そこでは個人と世界、教育と平和を結合させている。

グローバル化が急速に進展している時代にあって、いかに差異の奥にある普遍性を見出し、また複雑に絡み合う利潤競争の中にあって、いかに調和社会を構築していくかが重要な課題になってきている。

かかる現状を考える時、周恩来総理と池田氏の友誼は、単なる中日友好の美談としてではなく、調和社会の構築を目指す上で、再考すべき指導的価値を有していると主張したい。

崔学森（遼寧師範大学）：

本学では、教員と学生が共に池田思想研究に取り組んでいる。我々も池田氏のように、有為な青年を育てて行きたいと考えるからであり、またその青年への信頼と尊敬も、池田思想の実践で

あると考える。

私個人の研究領域は政治制度や政治思想、特に憲法である。現代社会を見ると、こうした制度や規則を遵守しても解決には至らない、複雑な問題が多く存在する。ここにおいては、個人における道徳の向上こそが要請されている。

それに応え得る道徳の基盤が、池田氏の人間を中心軸とした思想であり、その意味で私は、そこに人間をつくる最高峰の哲学をも見出す。

馮峰（清華大学）：

池田氏は、軍国主義と闘い獄死された牧口初代会長の精神を継承されている。そして、時流に流されず、一貫して、高い次元で判断し、正義を訴え、いかなる圧力にも屈せず、その精神を現実的に実践されてきている。

1968年の中日国交正常化提言は、まさにその象徴である。これは、池田氏が世界の大学・学術機関から300を超える名誉称号を受けられた理由の一つと言える。

今後は、さらに多角的に池田研究を進め、更に広範に影響を及ぼして行く為に努力することが重要である。

劉愛君（大連工業大学）：

本学では、学生が中心となって「池田大作読書会」を開催し、大きな反響を呼んでいる。私は、池田思想の探究が持つ4つの意義に言及したい。

まず1点目は、国際社会の舞台で他国の人々と友好と平和を推進する際に、極めて有益である。池田思想には、中日友好と世界平和を語る崇高な哲学が包括されている。2点目は、人権、貧困、環境問題等の種々の社会問題に対する深い洞察を磨くことができる。池田氏が世界各国の識者と対談し編集された書籍は、地球規模の課題を幅広く論じている。

3点目は、池田思想は人間の成長や教育に主眼を置いており、教育の目的、人間教育の原点を指示している。4点目は、池田思想はそれに触れる人に、勇気と希望と活力を与える。

(4) 第7回「池田大作思想国際学術シンポジウム」（日中国交正常化40周年記念）

10月27日、28日「多元文化の融合下における現代教育」のテーマのもと、上記シンポジウムが上海師範大学にて開催された。世界各地の43大学・諸機関から約100名の研究者が参加した。提出された論文は計72本であった。

27日午前、基調報告の中で、上海師範大学の陸建非党書記は、池田氏の「国際教育観」を考察し、中国の現代教育の発展は多元文化の影響を受けて、グローバルな文化構造や政治構造に置かれていると指摘した。これは発展の機会であると同時に、大きな挑戦でもあると述べた。そして、多元文化にあって必要とされるのは「交流」と「融合」であると指摘し、これは池田思想を

表現するキーワードであると洞察した。さらに池田氏の教育分野における業績に言及し、中日両国の友好への鍵は、文化・教育分野における青年交流であると結んだ。

続いて中国社会科学院近代史研究所の歩平所長は、「国境を超える歴史認識と東アジアの『共生のエートス（道徳的気風）』」のテーマのもと報告した。その中では、特に池田氏が中国社会科学院で行った講演「21世紀と東アジア文明」（1992年）に言及し、池田氏が唱える「共生のエートス」の哲学が東アジアの未来とその発展の方向性に、貴重な示唆を与えていると結んだ。

27日午後は、4つの分科会に分かれ議論が交わされた。以下、各分科会での発表者と論文テーマを紹介する。（敬称略）

第1分科会（教育主義Ⅰ）

陳立新「建築の審美と創価の理念」（上海杉達学院）

王晨曦「池田大作『以人爲本』教育思想の大学の思想政治教育に対する示唆」（遼寧金融職業学院）

俞慰剛「池田大作教育理念から見た教師の天職」（華東理工大学）

蔣菊「創価教育が生命を奮起させることにおける示唆」（肇慶学院）

劉焜輝「池田大作教育思想の源流と展望」（中国文化大学）

唐彦博「池田大作教育思想から兩岸の教育交流の展望を論ず」（台北海洋技術学院）

高岳倫「多元的に融合した文化教育を以て現代教育の価値を創造する」（仲愷農業工程学院）

卓光平「人間学思考と青年教育」（紹興文理学院）

何卓雅「池田大作美育思想研究」（広州美術学院）

第2分科会（文化主義Ⅰ）

糸井川修「音楽の力」（愛知学院大学）

朱新建「池田大作の音楽芸術思想」（愛知学院大学）

温憲元「多元文化主義：グローバル化と文化建設」（広東社会科学院）

譚桂林「池田大作の詩歌の中の“世界意識”」（南京師範大学）

馬利中「“文化力”は持続的な都市発展の推進力」（上海大学）

王夏永「平和は文化交流を創造する」（安陽工学院）

夏広興「宋文化の伝播者」（上海師範大学）

喬易安「上海師範大学の初期対日交流活動の歴史的意義」（上海師範大学）

周玉琳、閻偉偉「入宋僧と日本律宗」（上海師範大学）

第3分科会（平和主義Ⅰ）

高橋強「池田大作の“日中友好”思想序論」(創価大学)
崔学森「創価学会の戦後日本における復興」(遼寧師範大学)
章舜欽「池田大作平和観及びその教育における実践」(アモイ大学)
陳鵬仁「平和の哲学、寛容の智慧」(中国文化大学)
洪剛、張晨「心の世界の平和を求めて」(大連海事大学)
紀亜光、馬亜男「“周池精神”を論ずる」(南開大学)
曾学龍「池田大作平和観及びその調和世界建設に対する示唆」(仲愷農業工程学院)
王育鋒「池田大作の平和観」(南開大学)
馬樹茂、木地伸雄「池田思想の卓越性と経営学及び世界平和」(培華女子学院)

第4分科会(人間主義)

劉繼生「『以人為本』の情報哲学」(創価大学)
樋口勝「創価思想における宗教観の特色」(創価大学)
冉毅「池田宗教哲学思想の“慈悲”実践の現代社会における意義」(湖南師範大学)
孫彬「朱子の自然哲学と安藤昌益の自然観との異同」(清華大学)
陳志興「『法華経』の智慧と池田大作の人間教育思想」(南昌大学)
安雅琴「多元共生を視野に入れた池田大作の女性観」(天津師範大学)
徐水行「池田大作と中国古代の智慧」(武漢大学)
李紅霞「魯迅と池田大作の女性観の比較」(紹興文理学院)
賈凱「生命の世紀を創造する」(南開大学)
陳曉春、吳曉龍「多元的多重的理論に基づいた生命の尊厳研究」(湖南大学)

28日

第1分科会(教育主義Ⅱ)

拜根興、徐鳳仙「池田大作師生観の核心及び其表現」(陝西師範大学)
仲雯雯、楊艦、曲德林「池田大作の環境教育理念及びその時代的特徴」(清華大学)
袁婧「池田大作の世界教育観」(南開大学)
柴申晟「為人、為師、為学」(上海杉達学院)
林彩梅「池田平和思想の現代教育に対する示唆」(中国文化大学)
李家華、熊貴彬「池田大作の青年観及びその中日青年交流に対する示唆」(中国青年政治学院)

第2分科会(教育主義Ⅲ)

李彦良「創価教育体系の製造責任に対する価値」(中国文化大学)
曾慶平、曾建平「池田大作の調和徳育思想の哲学的基礎」(井岡山大学)
呂雪艷「池田大作の礼儀教育思想の探究」(南開大学)

張欣亮「多元的視野の下の中日母語教材の比較研究」（上海師範大学）

王麗榮「池田大作の人間徳育の示唆」（中山大学）

曹婷、陳建明、賈慶超「創造型家族」（陝西師範大学）

第3分科会（文化主義Ⅱ）

劉建栄「芸術交流：人類の幸福感情と精神を昇華する境涯」（湖南師範大学）

車才良「池田大作と季羨林が語る東西文化」（井岡山大学）

蔡瑞燕「廖承志と池田大作の文化交流に対する比較研究」（仲愷農業工程学院）

朱俊華「池田大作児童文学の発展及び教育的意義」（遼寧師範大学）

董芳勝「対話から分析した池田大作の人間主義思想」（創価大学）

第4分科会（平和主義Ⅱ）

黄順力「『池田提言』を再考し、中日友好を共に擁護する」（アモイ大学）

劉愛君「池田大作の中国観」（大連工業大学）

汪鴻祥「池田大作の中日友好思想と実践の啓発的意義」（創価大学）

姚勝旬「中日民間外交研究と池田大作モデル」（貴州大学）

倪素襄「1968年池田提言の道徳的価値」（武漢大学）

田濤「池田先生の提言を再考し、中日の民間の友誼を深化させる」（中国国際友人研究会）

馬明衡「池田大作の人間外交思想」（南開大学）

第5分科会（英語専用）

Virginia C. Benson Richard Y. Yoshimachi “The Ikeda Center for Peace, Learning, and Dialogue.”

Jason Goulah “Daisaku Ikeda and Soka Movement of Human Education: A Bilingual Inquiry for Multicultural Creative Coexistence.”

Olivier Urbain “Daisaku Ikeda’s Philosophy of Peace Inner Transformation, Dialogue and Global Citizenship: Links with China.”

神立孝一 “Daikaku Ikeda and Soka Education.”

本シンポジウムは日中国交正常化40周年を記念して開催された関係もあり、平和主義の分科会では、池田氏の日中友好促進への実践に言及した論文が9本（平和主義関係の論文は全部で16本）発表された。その内6本が「68年池田提言」にも言及し、同提言の重要性が改めて議論

されている。またその9本の内3本が民間外交や人間外交の視点から述べられており、これがまさに池田氏の日中友好推進の真髄でもある。

28日午前、閉幕式で上海師範大学の陸党書記より総括があった。今後の池田思想研究にとって極めて有意義であると思われる。以下その要旨を10点にわたって紹介する。

- ①中日関係が微妙で緊張している時に、本シンポジウムをこのように大成功裏に開催できたのは、ひとえに池田氏の思想の魅力の賜物であると同時に、中日両国の教育界が友誼を大切にし、交流を堅持した結果である。
- ②先人によって世々代々の中日友好の基礎が構築されてきた。今後は我々が実際の行動でもって、それらを継承し発展させねばならない。
- ③中日両国人民の友好促進の最善の方法は、文化交流であることを改めて実感した。
- ④池田氏の偉大な思想をいかに宣揚していくかが重要である。同時代の人々に普及させながら現実化し、さらに深化させていかねばならない。そして深化させていく一つの方法として、比較の手法を用いて考察し研究する方法がある。この度のシンポジウムでは、牧口常三郎、馮契、陶行知、魯迅、廖承志等との比較が試みられ、大変に興味深い。
- ⑤さらに、実践していくことも重要な方法である。研究の為の研究にとどまってはいけない。従って、実験的で実証的な報告、特に社会の現実に関心を当てた問題、中日間の問題および世界の民衆が共通して直面している問題等を重視すべきである。
- ⑥池田思想研究を持続的に発展させる為には、一つは、シンポジウムを大学人以外にも開放していくことが重要である。もう一つは、更に多くの大学院生に参加してもらう工夫が必要である。国際的なフォーラムにして行く努力が更に必要である。
- ⑦池田思想は広くて深い故に、その精髓を整理し簡略化する必要がある。そのことにより普遍性を高め、社会全般に普及させることができる。
- ⑧池田思想の精髓は、人間主義、文化、教育であると考えられる。文化は普遍性を有し、教育はその文化を伝承し創造する為のものである。
- ⑨池田思想の出発点は、人類の幸福と世界の平和であり、また到着点もそれと同様である。
- ⑩この度は英語の分科会を設けたが、これは池田思想を世界的に普及して行く際に、大変に有意義で、中日両国にとどまらず世界的展開が期待できる。

(5) その他（学生団体、学生対象の学術研究会、交流会等）

①4月7日、東北師範大学「池田大作哲学研究所」が「青春対話読書会」を開催した。これには同大学の22名の学生が参加し研鑽した。

②5月30日、南開大学「周恩来・池田大作研究会」が鄧穎超逝去20周年を記念し「女性の価値

創造—中日青年友好交流会」を開催した。これには同大学、天津師範大学、創価大学等から 20 数名の教員学生が参加し、8 名の学生が研究発表した。テーマは、「池田大作先生の心の中の鄧穎超女史」、「鄧穎超と池田香峯子両女性の知識・智慧を学ぶ」、「鄧穎超の愛情観」、「鄧穎超の女性運動観」、「鄧穎超の晩年における民間外交」、「私の見る鄧穎超」であった。

③ 8 月 18 日、南開大学「周恩来・池田大作研究会」と創価大学「中国研究会」が共同で、中日国交正常化 40 周年を記念して「自覚・平和・使命」と題し中日青年交流会を開催した。これには 30 数名の教員学生が参加した。

④ 9 月 8 日、南開大学「周恩来・池田大作研究会」が中日国交正常化 40 周年を記念して「周池精神の継承、世代を超えた友好の推進」と題し国際青年学術シンポジウムを開催した。これには創価大学、北京大学、天津師範大学、遼寧師範大学、大連海事大学、南開大学海浜学院等から 100 余名の教員学生が参加した。

⑤ 11 月 24 日、大連工業大学「池田大作研究所」が「池田大作読書会」を開催した。これには同大学、遼寧師範大学、大連外国語大学、大連海事大学、創価大学、アメリカ創価大学等から 40 数名の教員学生が参加した。

2. 新設の池田大作研究機関

(1) 貴州大学「池田大作哲学研究所」2012 年 3 月設立

所長：張連順教授（宗教文化研究所所長）、副所長：羅同兵副教授（人文学院哲学学部主任）、胡嘉明副教授、その他 7 名の研究員

主旨：池田大作氏の生命哲学と人間革命の哲理を探求し、人間福祉の向上を目指す。

(2) 紹興文理学院「魯迅・池田大作研究所」2012 年 3 月設立

所長：王曉初教授

主旨：魯迅と池田大作氏に流れ通う思想の研究を目指す。

(3) 渤海大学「池田大作中日友好思想研究所」2012 年 9 月設立

常務副所長：李辛教授

主旨：池田大作氏の平和、教育と芸術分野の思想の研究と実践を通し、中日両国の友好関係を促進し、世界平和の実現を目指す。

(4) 井岡山大学「池田大作研究所」2012 年 10 月設立

所長：曾建平教授（副学長）

主旨：池田大作氏の平和・文化・教育の運動と、その思想・哲学を多角的に研究し、中日両国の友好促進を目指す。

(5) 北京師範大学「池田大作平和教育研究センター」2012年12月設立

センター長：高益民副教授

主旨：池田大作氏の思想から“人間のための教育”を探究する。

3. 池田研究の成果等

中国文化大学「池田大作研究センター」が「池田大作思想研究論文集」（第8号 2012年5月）を出版した。

施曉光、任玉珊、高于婷『牧口常三郎教育思想研究』（吉林人民出版社 2012年8月）が出版された。

南開大学「周恩来・池田大作研究会」が雑誌「金橋」（第2期 2012年9月）を発刊した。

王麗栄（山中大学・池田大作とアジア教育研究センター副所長）『池田大作徳育理論及其実践』（黒竜江教育出版社 2012年9月）が出版された。

第5回「池田大作思想国際学術シンポジウム」の論文集『与池田大作対話人類発展』（中国社会科学出版社 2012年10月）が出版された。

なお日中友好学術研究助成プログラムで、「池田大作の著作の中国における翻訳状況に関する研究」が日本滞在研究助成として採択された。